文化庁月報

No.501
平成22年 6 月号

CONTENTS

文化の礎　玉井日出夫 文化庁長官鼎談
第７回　ゲスト 佐藤 治男さん●全国文化財壁技術保存会会長
永井 規男さん●建築史家・関西大学名誉教授

地域の個性を大切に　（前編）後世へ伝えたい土壁の魅力 …… 4

特集 **国民読書年**

寄稿
読書の力　国民読書年を迎えて …… 肥田美代子・12

事例紹介
平成２１年度「全国読書フェスティバル in 香南／文化芸術懇談会」イベント報告 …… 高知県教育委員会事務局生涯学習課・19

パネルディスカッション
読書が子どもたちの創造性と表現力をはぐくむ …… 22

連　載

鑑　文化芸術へのいざない　35・36
新国立劇場という場（鵜山　仁）…… 28
ナポリ・宮廷と美（渡辺晋輔）…… 30

いきいきミュージアム　美術館・博物館事業レポート　99
釧路市立博物館（北海道）…… 32

こどもの文化体験 39
MEET THE MUSIC　アーティストが学校にやってくる！
（彩の国さいたま芸術劇場）…… 33

日本の伝統美と技を守る人々　選定保存技術保持者編　51
大城義政（手機製作）…… 34

文化交流使の活動報告　67
竹工芸をとおしての文化交流（竹工芸作家・武関翠篁）…… 35

伝建地区を見守る人々　伝建歳時記　68
吉良川のまちなみひなまつり（高知県室戸市）…… 36

言葉のＱ＆Ａ　3
短編映画「敬語おもしろ相談室」を作成 …… 38

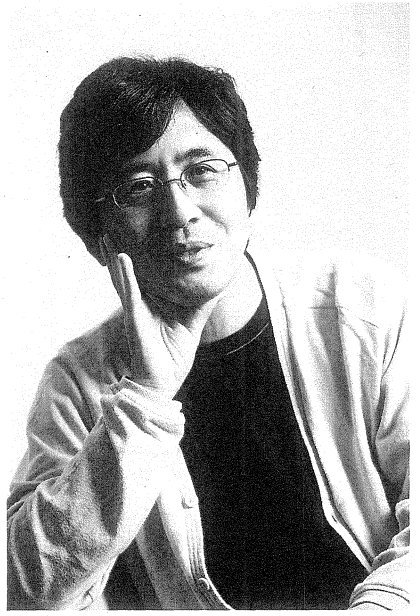
文化庁ニュース
平成 22 年度文化庁文化交流使指名書交付式 …… 39
平成 21 年度文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）
被表彰者の決定 …… 40
平成 22 年度【公益信託　大成建設自然・歴史環境基金】
助成金募集のご案内 …… 42

イベント案内● 43
新国立劇場スポットライト● 45
７月の国立劇場● 46
芸術文化振興基金ニュース● 47

今月の表紙

紫陽花
撮影：岩崎　明

新国立劇場という場
新国立劇場演劇芸術監督として



鵜山 仁
新国立劇場演劇芸術監督

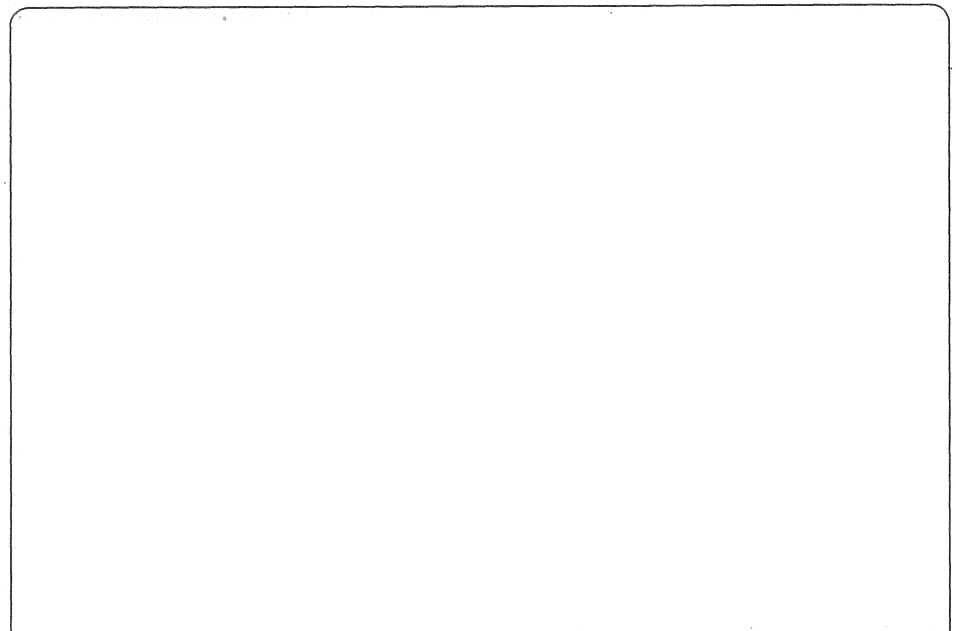
昨年から今年にかけて、新国立劇場演劇部門では、年間八本の主催公演に加え、この劇場をより開かれ、さまざまな話題が自由に行きかう場所にするための取組として、例えば上演作品にかかわるレクチャー、パネルディスカッション、展示等を試みてきました。

「国立」や「公立」と「民間」、つまり「公」と「私」、「官」と「民」の問題は、現代の劇場、演劇的環境を考える上でも、今後いよいよ切実な課題となるでしょう。公共劇場に先天的に備わった演劇的蓄積というようなものは、もともと何もありません。そういう意味では劇場の出発点は箱もの、広場。それはそれでいいのです。だいじなのはその箱や広場に、我々が、さてどんな創造性を持ち込むのか。芝居の世界でも、「公」を活用する「私」、一人ひとりの知恵が厳しく問われることになるでしょう。

芝居は、というかあらゆるアートは、行き着く先は「死」という、いわば負けと決まった人生の、戦いの証を語り継ぐためのツールだと思います、しかしそのゴールの、そのまた向こうに何らかの目的を想定しないことには、人生に意味を見出すことはできません。「個」である「私」と、それをこえる目的、「公」との間でどう戯れるか。これが特に昨年秋、新国立劇場で上演した『ヘンリー六世』以降、私自身の新しい宿題になりました。この作品を上演する機会に恵まれたことで、私自身、「私」と「公」をつなぐ関係作り、芝居作りに、すこしは楽観的な見通しがもてるようになった気がします。

「国」が「私」から遊離した意思をもつなんてことを、我々はよくよく警戒すべきだと思いますが、そのためにもまず鍛えるべきは、我々自身の批評精神でしょう。

「公」は恐らく「私」よりも長生きをするはずです。だからこそ今後とも、「国立」を教条化することなく、しかしいざという場合にはここに駆け込んで、という懐の深い「公共性」をともに作り上げ、この場の自由を大いに享受したいと思っています。



『左より，浦井健治（王ヘンリー六世），中嶋朋子（王妃マーガレット）

『ヘンリー六世』の演出により，鵜山芸術監督は第17回読売演劇大賞の最優秀演出家賞，平成21年度芸術選奨・文部科学大臣賞（演劇部門）を受賞した。

また，演劇公演『ヘンリー六世』は第17回読売演劇大賞の大賞・最優秀作品賞を受賞した。

●7月号予告

◆長官対談◆
【文化の礎】玉井日出夫文化庁長官鼎談後編
佐藤治男氏　全国文化財壁技術保存会会長
永井規男氏　建築史家・関西大学名誉教授

◆特集◆
「改定常用漢字表」に関する答申
文化政策部会審議経過報告
特別史跡平城京跡第一次大極殿復原工事（復原整備）

◆文化庁ニュース◆
平成22年度著作権セミナーの開催　など

◆連載◆
【鑑　文化芸術へのいざない】
学生を対象とした歌舞伎鑑賞教室「歌舞伎のみかた／新古演劇十種の内　見替座禅」（国立劇場）
「仏道の道」（東京国立博物館）
【文化人の気魄】
宝瀬利美・漆芸作家
【いきいきミュージアム　美術館・博物館事業レポート】
神戸市立博物館
【こどもの文化体験】
順調です！　全国高総文祭みやざき２０１０
【祭り歳時記】
薩摩の水からくり
【文化交流使の活動報告】
伊部京子・和紙造形家
【著作権トピックス】
私的使用目的の違法配信からのダウンロード違法化
【言葉のQ&A】
尊敬語と謙譲語Ⅰの混同の問題①　など

<お詫びと訂正>
本誌平成22年5月号記事中に以下の誤りがございましたのでお詫びして訂正いたします。

●長官対談　文化の礎
8頁　第1段19行目
（誤）効率化や
（正）効率や
15頁　第4段19行目
（誤）賛（さく）の目
（正）賛（さん）の目

編集後記

今月号では、「国民読書年」と題して、財団法人文字・活字文化推進機構からの寄稿と、平成22年1月に開催した、高知県全国読書フェスティバルのイベント報告を掲載いたしました。この高知県での読書フェスティバルのイベントは平成19年度より開催しており、今回が第3回目、また、文化庁が都道府県といっしょに開催している文化芸術懇談会は平成14年から開催しており、今回が第41回目でした。今回は両イベントのコラボレーション企画として開催した次第です。合同開催のテーマは高知県が推進している「子どもの読書環境推進」と文化庁が推進している「文字・活字振興」を共有し、「読書が子どもたちの創造性と表現力をはぐくむ」といたしました。イベントを開催するにあたりご尽力いただきました、高知県教育委員会や読書フェスティバル実行委員会の皆さまをはじめ、今回の執筆にご協力いただきました皆様方に心から感謝申し上げます。
（政策課員）

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等へのチケットプレゼントは，
A　京都国立近代美術館
「Trouble in Paradise／生存のエシックス」
５組（ペア）
B　国立新美術館
「マン・レイ展　知られざる創作の秘密」
２組（ペア）
C　京都国立博物館
「没後200年記念『上田秋成』」
２組（ペア）
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ，6月25日（金）までにご投函ください（当日消印有効）。
＊チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では，ホームページで，文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見，文化庁月報の感想などを，ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
http://www.bunka.go.jp

文化庁月報　６月号（通巻501）

平成22年６月25日印刷・発行

編集――文化庁
〒100-8959　東京都千代田区霞が関3-2-2
発行――株式会社 ぎょうせい
本社　〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部　〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11
電話　編集　03-6892-6527
販売　03-6892-6666
フリーコール　0120-953-431
URL：http://www.gyosei.co.jp
印刷所―ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち，意見にわたる部分については，筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円　本体514円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは，直接弊社の本・支社，あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
（株）ぎょうせい営業部広告担当
電話 03-6892-6589（ダイヤルイン）
2010 Printed in Japan　ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。